

# 韓国金剛大学校訪問報告

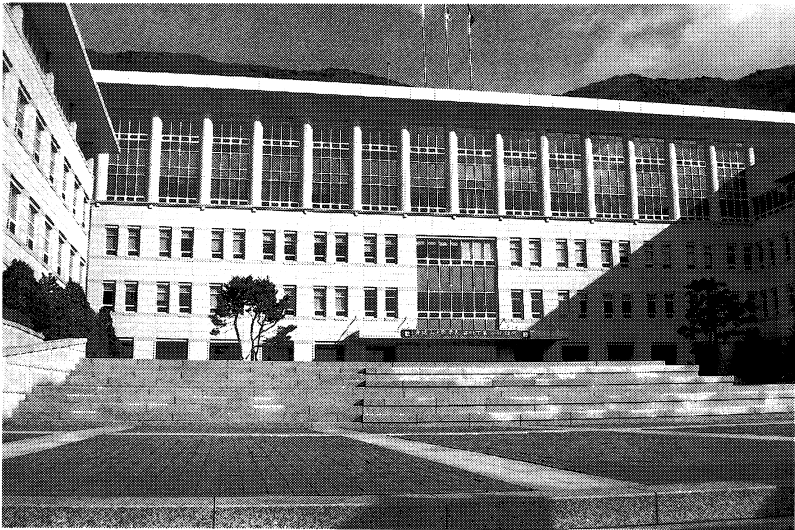
福 士 慈 稔

二〇〇八年十一月十七日(月)から十一月十九日(水)の日程で、金剛大学校と身延山大学との友好交流協定打ち合わせのため、宮川了篤学長、中山光勝学部長、そして筆者の三人で渡韓した。金剛大学校は二〇〇三年に大韓仏教天台宗が創設した仏教系大学である。法華経を所依經典とする教団の創設校同士ということで、両校の間に交流協定の話が持ち上がり、今回の渡韓となった。

金剛大学校のキャンパスは、ソウルから一六〇kmほど離れた忠清南道論山市の郊外、鷄龍山の麓にある。ソウル駅から鉄道で論山駅まで行き論山駅からバスかタクシー、ソウルから高速バスで大田に行き大田からバスを乗り継ぐかタクシー、ソウルから高速バスで公州に行き公州か

らバスかタクシー等々、幾つかの交通手段があるが、ソウルから三・四時間は要する位置にある。今回は金浦空港まで、金剛大学校仏教文化研究所の金天鶴先生と石吉岩先生が車で迎えに来てくれたため、金浦空港から大学まで三時間程で行くことが出来た。迎えがなかったら六時間以上要したはずである。

金剛大学校は仏教・福祉学部と通商・行政学部の二学部で構成され、仏教・福祉学部には仏教学専攻と社会福祉学専攻の二コース、通商・行政学部には通商通訳学英語専攻・日本語専攻・中国語専攻そして行政学専攻の四コースがある。一学年八十名の定員で、一年次の授業料は全額免除、全学生に奨学金を支給している。またボー



金剛大学校本部

ディング・キャンパス（全寮制大学）制度を採択し、全学生の寮費を無料としている。その他にも、海外交流校での語学研修や交換留学時にも奨学金を支給するなどの支援を行い、更に卒業生で海外大学院進学者には学費の全額支援と生活補助費を支給している。そのため日本の大学入試センター試験に該当する韓国・大学修学能力試験の上位十一％以内の学生が入学しているとされる。このような学生支援が可能なのは、大韓仏教天台宗から日本円で年間約十億円の補助金があるからである。

初日は午後四時に金剛大学校に到着し、直ちに成業承総長との会談を総長室で行った。二日間で共同研究、學術交流、教員交流、学生交換等の基本交流案についての協議を進め、今年度内に友好交流協定書を取り交わすということで合意となった。

その後、成総長主催の歓迎パーティーまでキャンパス内の見学を行った。現在、キャンパス内は、大学本部を兼ねた講義棟、図書館、男子学生寮、女子学生寮のみであ



総長室での会談

るが、講義棟の後方には国際禅センターが建設工事中であった。将来的にキャンパス内に四棟の講義棟、学生センター、学生会館、体育館、研修センター等々、更に十以上の建物が立ち並ぶ予定とのことである。

歓迎パーティー終了後、宿泊のホテルに着いたのは午後九時を過ぎていた。宿泊は金剛大学校から車で五十分程要する大田広域市儒城区内のホテルである。儒城は韓国で有名な温泉観光地である。大学校からは若干遠いが、大学校周辺に宿泊施設がないため、海外からの訪問者には儒城のホテルを勧めているとのことであった。

翌日、再び両校の交流案についての打ち合わせを行い、具体的に諸条件を煮詰めた。打ち合わせ終了後、午後三時よりセミナー室で「日蓮聖人にみる虚空蔵菩薩求問持法の一考察」という演題で、宮川学長が講演を行い、学術交流の第一段ともなった。

二泊三日の行程であったが、飛行機が羽田に到着した時に、急に疲れを感じたのは私だけではないようだった。



宮川学長講演後の記念撮影

宮川先生、中山先生、お疲れ様でした。